

グローバルアドバイス②

- 1 目的 探究学習委員会の生徒が今後課題研究を進めていく上で、テーマの絞り込みや調査方法、視角等について、オーストラリア研究の専門家から適切なアドバイスをいただき、今後の探究学習の一助とする。
- 2 日時 令和元年 7 月 23 日(火) 14:00～16:30
地歴科室
- 3 講師 筑波大学生命環境系地球環境科学専攻 堤純教授
専門／オーストラリア大都市圏に関する研究 他
近著 『変貌する現代オーストラリアの都市社会』
筑波大学出版会（2018 年 3 月）
- 4 対象 探究学習委員会生徒 22 名
- 5 内容 オーストラリアの牧場経営に関する調査発表(代表生徒 5 分)
各グループ(計 7 グループ)から研究テーマに関する質問と質疑応答(各 10 分)
堤教授による現代オーストラリア研究に対する総括的なレクチャー
「オーストラリアの農牧業—もはや「羊の背中にのった国」ではない?—」
(30 分)
- 6 生徒からの質問内容例
 - ・ゴミを周辺地域および企業が回収し、できるだけ正確に分別したりすることは可能であるか?
 - ・オーストラリアの学校生活について、日本と異なるところについて教えてください。
 - ・オーストラリアでの多言語への対応や観光産業へのサポートはされているか?
 - ・オーストラリアでは T P P をどう見ているか? 日本のように問題視する声はあるのか?
 - ・遠隔操作できる農機がオーストラリアに導入されているそうだが、どれほど使えるものなのか? 日本でも使えるようにできるだろうか?
 - ・海外(オーストラリア、マレーシア)には学習塾はありますか?
 - ・海外の子供たちは、放課後どこで勉強していますか?
 - ・民族間のトラブル等はオーストラリアで起こりますか? また、その時にどのような対策をしますか?
 - ・オーストラリアの人の生活と自動車の密着度はどのくらいか?
 - ・外出時の子供に対する安全意識(常に目を離さない、手をつなぐなど)
- 7 生徒の感想
 - ・ライフスタイルと深く結びついた農業については、日本で同じ事をするのは難しそうだが、効率を追求するという姿勢がとても印象的だった。

- ・インターネットで調べるだけでは絶対に分からなかったオーストラリア内での常識や、日本とは違う差別に対する認識などがアドバイスで聞くことができとても参考になりました。
- ・多くのグループの質問で日本とオーストラリアの価値観で違いのあるところは思いのほかたくさんあると感じた。日本よりもドライバーの意識が高いというのは意外だった。
- ・今までグループ内で言及していなかった新たな着目点から意見がいただけたので、方向性の選択肢を増やすことができたと思う。特に、言語サービスにおいては、オーストラリアではマルチリンガルなど時給が上がるなど、ビジネスを行う上で参考になる話が聞けた。
- ・両国の一番大きな違いは、日本が団体の観光客を多く呼び込んでいるのび対し、オーストラリアはバックパッカーから超富裕層まで幅広い層の取り込みに成功していることだと思う。
- ・オーストラリアに行く前にもっと調べるべきことがたくさんあると痛感した。日本ではいかに若者を農業に従事させるかということが話題にあがるが、オーストラリアは農業はビジネスとして成立していてそれ程問題になっていないと分かって驚いた。
- ・オーストラリアと日本の考え方の根本的な違いを感じました。また、日本よりも農業が盛んなのかと思っていましたが、第一次産業従事者の割合が殆ど同じだと知って驚きました。
- ・オーストラリアでは、学習塾がなかったり、学校に残ることが全くなかったりと、全く考えもしなかったことが分かって、固定概念に縛られてはいけないと思いました。
- ・今後は、ターゲットを絞る当初の計画に加えて、幅広いニーズに応える長期的な取り組みについても考えていきたいと思いました。
- ・オーストラリアの学校の生徒の考え方は、小さい頃からの環境が大きく影響していることを知り、もっと詳しく調べたいと思った。
- ・単純に外国のメソッドを外国に取り入れるだけでなく、各国固有の現状に目を向けなければいけないと思った。

